

# 深志同窓会々報

題字 松中10回卒文学博士  
 中山久四郎筆  
 発行所 松本市蟻ヶ崎3-8-1  
 松本深志高等学校内  
 深志同窓会  
 発行人 穂苅甲子男  
 編集 刊行委員会  
 印刷 電算印刷株式会社

## 深志教育会館(仮称)着工へ

### 学びの場、交流の拠点

松中・深志百三十年の流れの中で待望久しかった「深志教育会館」(仮称)がいよいよ八月初めに着工の運びとなります。完成は百三十年に当たる平成十八年夏の予定です。会館の設計は芸術院賞に輝く建築家柳澤孝彦氏(深志五回)で、このほど設計図ができました。会館の建設場所は尚志社の跡地。母校の直ぐ近くです。深志の「自治の源流」ともいべき尚志社の地に生徒の学習の場、同窓生の交流交歓の拠点、さらには地域にも開かれた生涯学習の場としても期待されています。この会館建設のため一億五千万円の募金目標達成へ各年次会は熱心に活動を展開中です。

なぜ、今会館か  
 同窓生にとって宿願であり長年の夢、それが「深志教育会館」です。次代を担う後輩たちが学習の場として活用ができることを学校

もPTAも期待しています。現在は図書館二階の一部が自習室となつていますが手狭です。会館ができれば学年単位の集いも可能です。同窓生にとって会館は同期会、クラブのOB会、あ

るいは先輩・後輩交流の場として建設が待たれていました。二十一世紀へ入って初めての周年事業「百三十年」は、会館建設のまたとないチャンスです。文字通り待

ちに待った「我らの会館」です。

#### 二十一世紀見据えて

世界も我が国も今、大きく揺れ動いています。教育もまた厳しい環境に置かれています。小林有也先生が初代長野県中学校長に就任された明治十七年前後も国の内外とも多事多難でした。その渦中において在任二十九年間、自治の校風を築かれたのでした。

深志の自治の中から多くの人材が羽ばたいて行きます。

#### 募金活動、強力に

昨年十月発行の同窓会報で、会館建設の募金目標は一億五千万円とお知らせしました。募金の趣意書(本号に再掲)と振込用紙を会員の皆さんにお届けし、六月二十日現在約六千八百万円が寄せられました。

年次会によっては独自の趣意書を添えるなど熱心な取り組みが行われています。また各支部でも寄金協力の呼びかけが行われるなど従来の周年事業にも増して盛り

## 各年次が達成目ざす 若いとんぼも募金に熱意

若い世代も頑張っています。四十二回の皆さんは母校のカラー写真をバックに独自の募金呼びかけ文を作り「一人でも多くの拠金を」と活動とつづけています。近く三度目の協力要請を行う予定です。

「十三回生は早くも目標を越えました。さらに多くの仲間が募金にに応じてくれることを願っています。金額もそうですが少しでも人数が、とも思っています」と世話役の一人は話しています。

また「なんといっても私たちは日頃の活動が活発なんです。年四回の同期会の他に最近では全国お出かけ同期会も行っています。その他季節のゴルフ会、毎月の飲み会などグループ活動も活発です。来年は母校の百三十年周年と卒業四十五周年が重なりますのでさらに張り切っています」ともう一人の世話役も強調しています。

り上がりを見せています。来年十月七日の百三十年周年記念式典までに新しい深志の自治の城、教育会館が

竣工するよう実行委員会で「目標額達成」を懇請しています。

## 深志教育会館の設計に寄せて

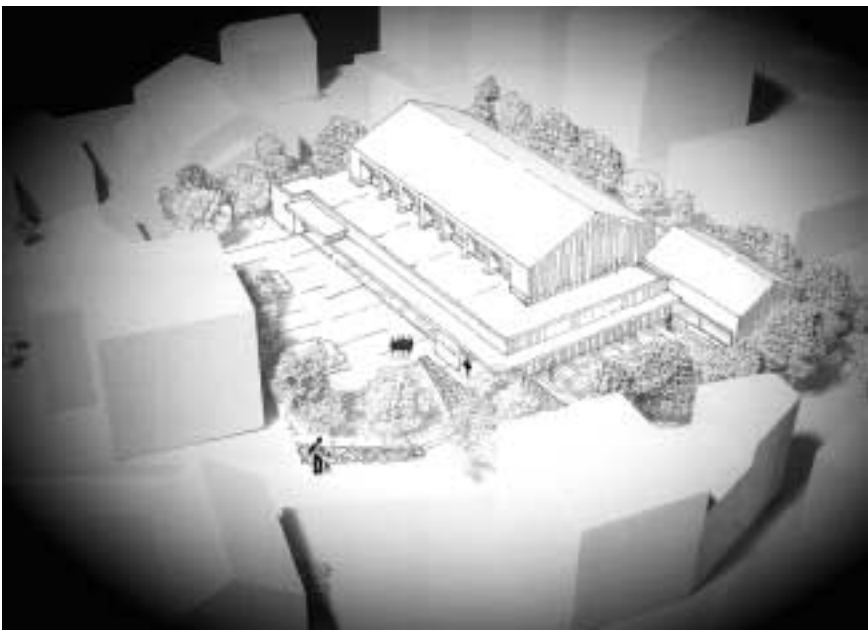
設計者 柳澤 孝彦氏

のであります。

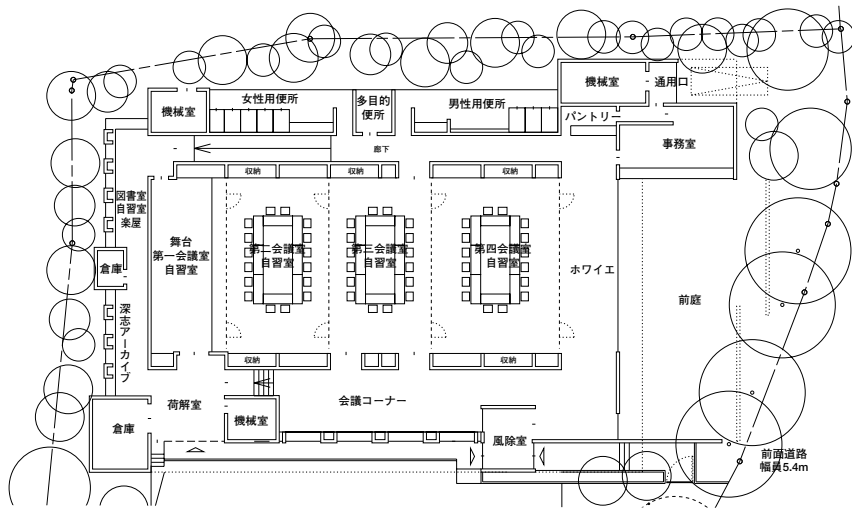
建築の構成は瀟洒な構えで、この土地の記憶を見守ってきた数本の桜と対話する、地域に調和する平屋建てとしました。機能空間は全てを一階に配置して、フレキシブルな活用を意図して、中央の高い吹き抜けのある大ホール空間と、その周囲を回廊状の空間が巡る極めて簡明な構成としました。

四枚の可動壁の移動で分割使用可能な大ホールと、回廊状空間との自由な組み合わせで、講演、講義、会議、会合、コンサート、演劇、展覧会、図書室、自習室など多様なシーンが容易に設定することができます。ここでは、仕切られた部屋が羅列する会館を脱して、活動内容の企画に合わせた自由な空間設計による創造的空間利用がコンセプトであります。

深志創立百三十年を記念し建設される深志教育会館は、深志伝統の自治の精神を継承し、高い文化として交流する拠点であり、更に地域社会に開かれた教育文化の場を備えた公共施設として、発展を期待するも



完成予想図



平面図

# 長年の夢実現を

## 130周年記念事業募金一覧表

(平成17年6月20日現在)

※印は年次会まとめ

卒業回	目標額(千円)	件数(件)	募金額(千円)	達成率(%)
松中59以前	4,000	82	2,099	52
松中60	1,000	11	270	27
61	1,000	11	720	72
62	1,500	21	1,460	97
63	2,000	37	2,260	113
64	2,000	57	770	39
65	2,000	17	435	22
66	2,000	29	530	27
67	2,000	82	1,308	65
68	2,000	81	1,690	85
松中小計	19,500	428	11,542	
深志1・松中69	2,500	97	2,745	110
深志2・松中70	2,500	62	1,090	44
深志3	2,500	※	1,000	40
4	3,000	105	2,300	77
5	3,000	※	2,500	83
6	3,000	163	※3,148	105
7	3,000	96	2,080	69
8	3,500	86	3,066	88
9	3,500	※	2,236	64
10	3,500	※	2,000	57
11	3,500	129	2,290	65
12	3,500	94	1,575	45
13	3,500	117	4,283	122
14	3,500	33	※675	19
15	3,500	63	1,180	34
16	3,500	101	2,235	64
17	3,500	30	500	14
18	3,500	3	※70	2
19	3,500	54	1,045	30
20	3,500	32	590	17
21	3,000	76	1,740	58
22	3,000	15	295	10
23	3,000	53	1,085	36
24	3,000	33	561	19
25	3,000	43	830	28
26	3,000	40	830	28
27	3,000	34	725	24
28	3,000	79	1,640	55
29	2,500	26	445	18
30	2,500	16	285	11
31	2,500	18	235	9
32	2,500	24	385	15
33	2,500	21	320	13
34	2,000	6	102	5
35	2,000	6	70	4
36	2,000	9	180	9
37	2,000	2	25	1
38	2,000	4	100	5
39	1,500	5	90	6
40	1,500	3	40	3
41	1,200	4	80	7
42	1,200	37	603	50
43	1,200	2	40	3
44	1,000	5	55	6
45	1,000	7	140	14
46	1,000	4	60	6
47	1,000	4	70	7
48	1,000	5	70	7
49	800	4	60	8
50	800	1	10	1
51	800	4	40	5
52	700	6	80	11
53	700	7	100	14
54	600	7	91	15
55	600	10	140	23
56	500	13	245	49
57	500	48	801	160
58在校生3年	500	33	580	116
59在校生2年	500	48	830	166
深志小計	130,100	2,031	50,686	
夜中18以前	200	10	150	75
19	100	3	80	80
20	100	5	90	90
21	150	5	100	67
22	150	4	80	53
23	150	4	150	100
24	150	17	435	290
25	100	9	80	80
26	100	1	10	10
夜中小計	1,200	58	1,175	98
定時5以前	500	14	216	43
6	150	7	160	107
7	150	0	0	0
8	150	17	210	140
9	150	7	170	113
10	100	4	75	75
11	100	2	15	15
12	100	2	40	40
13	100	4	80	80
14	100	5	60	60
15	100	1	5	5
16	100	0	0	0
17	100	2	80	80
18	100	0	0	0
19	100	3	50	50
20	100	0	0	0
21	100	0	0	0
22	100	3	50	50
23	100	0	0	0
24	100	1	20	20
25	100	0	0	0
定時小計	2,700	72	1,231	46
総合計	153,000	2,589	64,634	42
篤志者		57	3,292	
篤志者含む総合計		2,646	67,926	44

### 募金趣意書

平成十八年、母校は創立百三十周年の大きな節目を迎えます。同窓会では記念事業として、長い間の願いであった会館建設に取り組みことを決めました。

深志教育会館(仮称)は、後輩たちの学習の場として活用されることはもちろん、同窓生の交流の場にもしたいと願っています。また常に地域社会への報恩に意を尽くしている同窓会として、また本校に開かれた社会教育、生涯学習の場にも役立てたいと存じます。会館の建設場所は母校と周辺の尚志社跡地です。現在テニスコートとして在校生が使っていますが、財団法人深志尚学会が所有しています。尚学会は同窓会と一体の組織で、理事長は同窓会長です。会館の建設には少なく見積もっても一億五千万円は必要ですので百三十周年記念事業実行委員会では各年次ごとにお願したい目標額を決め、総額一億五千万円の達成を目指しております。

会館の設計は、同窓生の柳澤孝彦氏にお願いし、平成十八年十月七日の百三十周年記念式典までに完成の予定であります。同窓会の長年の「夢」でありました会館建設へ是非ご協力賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

平成十六年九月吉日

財団法人深志尚学会・深志同窓会  
松本深志高等学校創立百三十周年記念事業実行委員会

### 募金要項

- 一、募金の名称  
松本深志高等学校教育向上助成金
- 二、募金の目的  
深志教育会館(仮称)建設の費用へ充当
- 三、募金目標額  
一億五千万円
- 四、募金対象者  
在校生(一〜三年生の保護者)、本校の卒業生、本校の教職員、本募金目的に賛同する個人・企業等の法人
- 五、募金額  
一口金一万円(できるだけ二口以上お願いします)  
平成十六年十月一日〜平成十八年九月三十日(二年間)
- 六、募金の期間
- 七、払込方法  
同封の振込用紙にてご送金ください。

### 「自治」を学び、活かそう 教育会館建設へご協力を



同窓会長 穂苅甲子男

母校の恒例諸行事、たとえば入学式、卒業式やとん

ぼ祭の他に私がいつも感動を新たにするのが小林有也先生のご命日、六月九日のお墓参りです。ことしも深志の生徒のみなさんが主体で厳粛に行われました。応援団管理委員会の委員長が小林有也先生の人となり、ご業績について詳しく述べてくれました。

きちんと調べ、要点を押さえた紹介で、毎年のご命日ながら胸が熱くなりました。深志に脈々と流れる「自治の精神」は、初代校長小林有也先生時代に涵養され大きく根を張り枝を広げたことは同窓生の皆さんの誰もが知るところですが、六月九日の墓前祭とも申すべ

### 一人でも多くの募金を



募金事業委員会委員長 久保田嘉信

約六千八百万円となりました。会館の建設の準備は順調に進み、着工も来る八月と決まりましたが、着工までに七千万円、十八年三月までは計一億五千万円の建設資金が必要という現状であります。

同窓生の夢であります会館建設へ絶大なご協力を賜り、締切日を前倒しして募金目標を達成させて頂きたく、心よりお願い申し上げます。募金要項では一口一万円(できれば二口以上お願いします)とさせて頂きましたが、同窓生の一人でも多く会館建設に参加して頂きたく、いくらでも結構ですので同封の振込用紙をご利用頂き浄財を振り込んで頂きたくお願いします。

なお、全同窓生に振込用紙は同封させて頂きましたことをご了承下さい。

### 全同窓生の思いを込めて



会館建設事業委員長 井上 保

着工を待つ深志教育会館(仮称)は、母校創立百三十周年事業の柱であります。蜻蛉群像二万三千人の長年の思いを込めた建設計画に對しまして、多くの同窓生各位よりご賛同をいただきました。

尚志社の跡地約千六百平方メートルに、RC造り一部木造平屋約七百八十平方メートルの建物を建設します。多目的ホールはステージを備え、一学年が一堂に会することのできる広さです。可動式間仕切りにより、会議室や自習室として使用することも可能です。

同期会をはじめコンサートや演劇にも活用できるよう、音響、照明設備も充実させます。資料室や事務室、ホワイエ、トイレなどを機能的に配置します。

とんぼたちの青春を見守り続けた尚志社跡地に建つ会館の建設は、母校史に新たなページを記す事業です。各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

# これからが正念場

## 支部も目標達成へ全面協力

◆東京支部  
「深志高校出身です」と言う、「あの有名な進学校の深志ですか」と言われ、そのたびに誇らしい気持ちになったものです。しかし最近では学区制の導入により、「松本深志」という全国のブランドに陰りが出てきたのでは、と憂慮してました。

そんな折、今年第一志望大学への進学率が六一・四％と過去最高を記録し、剣道部が中信高校総体で団体優勝したと聞き、藤本光世校長先生の熱心な指導のおかげで、深志の伝統がしっかり守られていると安堵しました。

その母校が来年、創立百三十周年を迎えることになりました。同窓会では記念事業として深志教育会館（仮称）の建設を決定し、募金活動を行っています。しかし先日、「計画通りに進んでいない」との報告を受けました。

同窓生が募金活動の趣旨をよく理解し、年次の集まる機会をつくり、進捗状況を公開するなどして、全員参加の活動にしていきたいものです。

（会長・中村胤夫）

### ◆東北信支部

百三十周年記念事業が関係者のご努力により着々と進み、いよいよ事業最大の柱である深志教育会館の建設が着工の運びとなり、同窓会員が一致協力の実を示す時が迫ってまいりました。

子は親の背を見て育つ、深志高生は先輩の姿を見て勉学の志に燃え育つのではないのでしょうか。深志百三十年の歴史と伝統は、幾多の先輩を輩出してまいりました。同窓会が志と力を結集し、築き上げようとしております教育会館も、やがて素晴らしい先輩の姿となり、後輩たちの力の支えとなることでしょうか。

中国の諺に「十年先を思

う者は木を植え、百年先を思う者は人を植える」とあります。会館建築事業は、まさに百年先を思い人を植える事業であります。われわれ会員一人ひとりが記念事業の募金活動を理解し、一日も早い目標達成に協力しようではありませんか。

（支部長・上條光成）

企画委員会、募金委員会の立場で東京と東北信の両支部総会で募金の現況を説明し、「目標達成」のお願いをして参りました。

今回の会館建設は記念事業であることはもちろんですが、それを超えて、同窓会挙げての大事業であることを訴え、ご理解をいただきました。懇親会で各テーブルを回ると温かい激励とともに母校への熱き思いを感じました。募金は年内に一億五千万円を目指していますので年次会単位の募金活動に更なるご努力をお願いいたします。（相澤英伸）

「巨大迷路」という例年とは少し違ったタイプの企画に決定し、誰もが楽しめるものを作ろうと準備をしています。

今年のとんぼ祭のコンセプトは「文化的な文化祭」です。日々の練習・研究の成果である発表を重視し、文化祭を終えた時に得るものがあるようにしていきたい、という願いが込められています。

十七年度生徒会が目指すことは、活動に参加したことと得られる楽しさや喜びを、本部のメンバーだけで



生徒会長 桐越仁美 (3年4組)

### 参加する喜びを

今年のとんぼ祭は七月十五日から十八日までの四日間です。

とんぼ祭実行委員会は何カ月前から準備を開始し、生徒会本部もとんぼ祭に向け活動を開始しています。ここ数年行っている全校製作も、全校アンケートで

なく一般会員にも味わってもらうことです。そのため第一歩として情報公開・情報交換に力を注いでいますが、全校生徒約千人を相手にする難しさを感じているのも事実です。

一年間のメインとなるとんぼ祭が、一般会員の喜びにつながっていくよう全力を尽くしたいと思います。

### 自治の体現こそ



応援団長 吉田智哉 (3年5組)

自分の任期中、残っている大きな仕事は夏の野球応援と、とんぼ祭準備、期間中の唱歌会・ファイヤーストームとなりました。

今期、自分が目標としたことは、伝統という「名」に依存し過ぎないことでした。伝統に頼り過ぎると形式に重きがゆき、本質を見失うと反省した結果です。この目標の上に、県ヶ丘高校応援団視察や応援団規約改正を行い、応援一人ひとりに、団員一人ひとりに「意識」をもってもらえたら、と考えました。

今年も深志入学の伝統である「春の歌練」が四日間行われました。壇上から見る一年生の顔は、最終日に

近づくにつれて深志生らしくなっていました。自分はこの伝統を乗り越えてこそ深志生だと考えます。そして深志の志を受けた彼らの多くは部活動に入り、活躍のために練習に励んでいます。

この時期は多くの三年生にとって引退の時期となります。惜しくも敗退する選手も、上の大会へと進出する選手もいます。皆同じ「深志生」であり、皆二年間鍛えた力を発揮します。

そんな彼らを校友皆で応援すること、これが自治の体現であり、これが自治の管の真の目標だと思います。

## 記念事業も準備進む

### 《文化事業委員会》

来開催す映画展や映画祭、番組製作、オーケストラ公演に向けて、準備を進めています。

絵画展は松本市美術館との共催で、十一月二日から開催します。「日本近代洋画への道」（仮称）と題して、山岡コレクションを中心に展示します。

映画祭は十月に予定しています。まともと市民芸術館を主会場に、市内の映画館で懐かしい映画を上映します。もう一度見たいという名画のリクエストを募集しています。

### 《刊行事業委員会》

「深志人物誌Ⅲ」は、初代校長の小林有也先生をはじめ二十八人の方々を取り上げます。各分野に偉大な足跡を残した先輩の人となりを描きます。既に取材や執筆にかかっており、来年九月に刊行の運びです。

五年ごとに刊行している



「深志同窓会名簿」の表紙は、松中の帽線にちなんでおり、今回が「紫」です。名簿の基礎となる調査は来春となりますが、先々の作業にご協力いただきますようお願いいたします。なお頒布価格は五千円で据え置く予定です。

同窓会のホームページを

ご覧ください。OB会や年次会など、同窓会を構成している多くの会の活動を紹介しています。リンクにより、母校のホームページを通じて現役諸君の活躍を見ることができそうです。

《母校後援事業委員会》

環境整備、中等教育資料のデータベース化、企画展の開催を計画しています。環境整備では、教育会館（仮称）に移転後の現・同窓会事務局を、生徒学習室や中等教育資料室などとして活用するための具体的支援をします。

なお記念式典事業委員会と報告書委員会につきましては次号以降、適宜紹介いたします。

## 尚学塾 学力向上にも貢献 OBの特別講座も好評

尚学塾は平成十四年四月にスタートし、ことしは四年目に入りました。学校の週五日制実施に伴い土曜日を活用し、学力の向上を図ると共に幅広い「知の挑戦」を目指しています。

「尚学塾の目指すもの」

趣意書に代えて」の中で「尚学塾の志向するところは、真の意味での『自治』の復活にあります。かつて上級生や先輩が下級生をよく教えたり、毎朝上級生の輪講があった

たような姿を二十一世紀の今に活かしたいと願うもので「す」と高らかに理想を掲げています。

運営は学校・PTA・同窓会代表による委員会が推進していますが、各年



先輩による尚学塾の特別講座（4回生による第1回目）

また尚学塾の先輩たちによる特別講座の聴講理由は七六・九％が「内容に興味・関心があった」、一八・三％が「進路選択に役立つと思った」からで、先輩たちの「出前授業」もすっかり定着しています。

今年度の尚学塾は四月十六日から来年二月十八日まで全二十四回が計画されています。先輩たちの特別講座は深志七回生の卒業五十周年記念、二十七回生の三十周年記念が順番を待っています。

# 笑顔輝き、意気高く。文武両道、深志の青春

深志の現在は？そして、いまの学生たちはどんなだろうか？ 思いはいつも「母校」に立ち帰っていきます。今年の松本深志は学業で飛び抜けて素晴らしい成果を上げました。とくに現役の大学進学率は過去最高とか。運動部も際立った好成績をあげている部がいくつかあります。演劇部や、ほかの学芸関係のクラブ活動も目覚ましいものがあります。生きいきと躍動する若きトンボたち。その活躍の一端をご紹介します。

## わだつみのこえ60年の集い

今年には戦後六十年。戦争の記憶を次世代へ引き継ぐ企画として、市内近隣の高校生が多数参加するなかで、五月八日、松本市のMウイングで『上原良司と「いま」を生きるーわだつみのこえ60年』が開かれました。松商学園高校放送部がドキュメンタリー映像を発表、本校演劇部は創作朗読劇「桜花、散る」(小川幸司前本校教諭構成)を熱演し、地歴会は上原の思想形成の過程を研究し意見発表するなど、約四百五十名の参加者に大きな感銘を与えました。翌朝のNHKニュースでも全国に放映され、



写真提供 市民タイムス

大きな反響を呼びました。

上原は松本中学から慶応大学在学中に学徒出陣。特攻隊員として二十二歳で散華しました。その遺書は『さけ わだつみのこえ』(岩波文庫)の冒頭を飾って

おこなわれました。全国の高校でも類を見ない詳細なシラバスを一年ごとに配布。この学年のみおこなわれた二年進級のクラス替え。先生方が発行した進路通信は三年間で二百

います。全体主義の世の中にあつて自由の価値を語り、戦後の日本社会に希望を託しました。今回の催しは、松中・深志同窓生が中心になり、全国約六百人の賛同

## 陸上部

### 女子千六百メートルリレー 優勝

北信越大会への女子マイルの意気込みはすさまじいものでした。決勝タイムは中信地区予選を八秒更新し、一人ひとりの粘りと執念がバトンで継がれ、集中力を切らすことなく、ゴールテープを切りました。一人四百メートルをつなぐ苛酷なレースは、多くの人に感動を与えてくれました。



## 進路状況

平成17年5月1日現在

国・公立大学 (合格延数)			
大学	現役	卒業生	合計
信州	33	15	48
東北	8	5	13
名古屋	7	6	13
東京	7	4	11
筑波	8	3	11
横浜国立	7	2	9
京都	3	5	8
北海道	2	6	8
一橋	2	5	7
千葉	7	0	7
金沢	5	1	6
東京外語	4	2	6
首都大学東京	2	4	6
新潟	4	1	5
横浜国立	3	2	5
その他	27	25	52
合計	129	86	215

私立大学			
大学	現役	卒業生	合計
早稲田	20	33	53
中央	10	28	38
立命館	15	19	34
慶応義塾	17	13	30
明治	10	16	26
立教	3	15	18
法政	4	13	17
日本	6	11	17
東京理科	6	9	15
同志社	5	9	14
上智	2	8	10
津田塾	5	4	9
東京女子	3	4	7
東京薬科	1	6	7
北里	3	4	7
日本女子	2	4	6
東洋	1	5	6
独協	2	4	6
青山学院	3	2	5
その他	46	75	121
合計	164	282	446

者を得て実施したものです。

剣道部は、日ごろから外部指導者の清野先生に熱心な実技指導を頂いています。今回の中信大会で、男子団体は決勝で松商学園高校と対戦しました。五人の選手が対戦相手と手に汗握る一進一退の激闘



## 剣道部

### 全国選抜 ベスト8の快挙

五月二十一日、明治神宮至誠館で行われた大会で、男子団体決勝トーナメントに進み、準々決勝で十二射中一射差で惜しくも敗れましたが、ベスト8の好成績でした。その

## 弓道部

### 将棋部

後行われた県大会では第三位になり、北信越出場を勝ち取りました。



## 将棋部

将棋選権個人優勝で、嶺山友秀君が仙台で開かれた全国大会に出場しました。引き続き五月の県将棋選権団体優勝した嶺山君、上条君、赤羽君の三人が青森県三沢市で行われる全国大会



# 東大へ11人合格 トップ 県内

十七年度、東京大学へ十一人(現役七、浪人四)が合格し、長野高校の六人(現役三、浪人三)を上回り、県内トップとなりました。進学率も六一・四%に達し、過去最高の記録を残しました。

全国的にも類を見ない詳細なシラバスを一年ごとに配布。この学年のみおこなわれた二年進級のクラス替え。先生方が発行した進路通信は三年間で二百

として、同窓生・PTAを巻き込んで進路を考えるためのさまざまな機会をつくりました。多彩な講師を迎えての学年ゼミナールの実施。一年時に企業訪問、二年時には

(二十九回・総合人間学部)など多くの卒業生の協力を得て行われました。「自分のターニングポイント」というように、生徒のモチベーションを高める効果は大きいものでした。

早稲田、慶応の現役合格者は、昨年の十四人から三十七人に急増しました。国立大学も十四年の七十四人から年々増え、百十八人となりました。

生徒へのさまざまな「刺激」が確実に成果をあげています。

東大への現役合格者が十六年度の三人から飛躍的に伸びた背景には、生徒がよく勉強したことに加え、先生方の真摯な取り組みがありました。

第一に、担任の先生方が連携して、意思統一を図った取り組みと指導が

号におよびます。その熱意のほどはすさまじいものがあります。

さらに、就任五年目となる藤本光世校長は、「進路とは大学選択だけではなく、自分の生き方を考えること」

## 将棋部

に出演します。ぜひ周囲の声援に添えて満足のいく対局ができることを祈っています。

募金委員会は、税務上の優遇措置(個人については寄付金控除、法人は損金算出となります)を得るよう現在も懸命に努力を重ねています。

ことしは藤本光世校長が就任五年目。大学進学率が過去最高で、東大へは長野高校を抜いて県内トップとなります。スポーツの面でも活躍が目立ち、文字通り「文武両道の深志」です。これからの後輩たちのためにも深志教育会館への募金にも層努力をと編集委員一同も願っています。

## 蜻蛉抄

百三十周年へ向けて穂苅会長を先頭に同窓会全体が大きな盛り上がりを見せています。今回の同窓会報は、その熱気を背景に深志教育会館建設の募金目標達成への「お願い特集」としました。

募金委員長の久保田嘉信さん、建設事業委員長の井上保さん、また各支部長さんにも登場いただき、深志教育会館建設の経緯、募金の現状、今後の取り組みの推進について述べてもらいました。募金の現状は第二面に一覧表として紹介しました。

募金委員会は、税務上の優遇措置(個人については寄付金控除、法人は損金算出となります)を得るよう現在も懸命に努力を重ねています。

ことしは藤本光世校長が就任五年目。大学進学率が過去最高で、東大へは長野高校を抜いて県内トップとなります。スポーツの面でも活躍が目立ち、文字通り「文武両道の深志」です。これからの後輩たちのためにも深志教育会館への募金にも層努力をと編集委員一同も願っています。